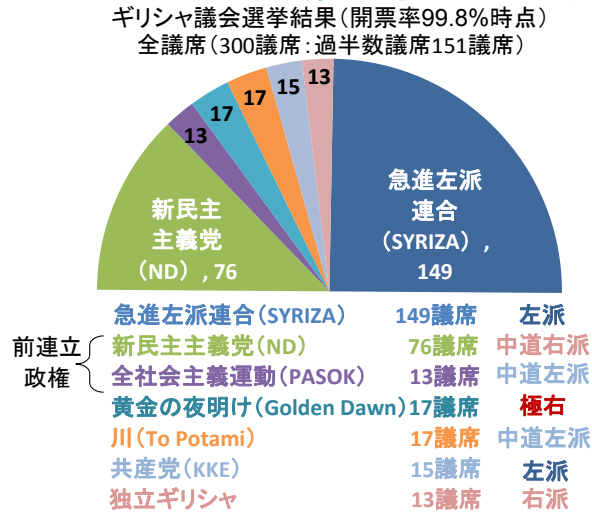


ギリシャ議会選挙 – 下馬評通り急進左派連合が圧勝、左派政権誕生へ

【図1】 大方の予想通り、ギリシャ議会選挙は急進左派連合が圧勝



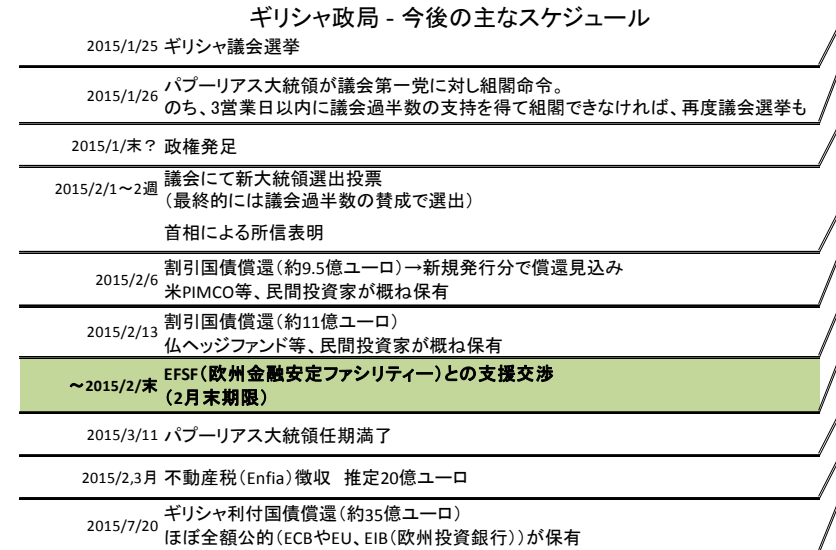
注) 数値は議席数で東京時間1月26日午後13時現在、公式の確定値ではない。図の色と下部政党名の色が対応。
出所) ギリシャ内務省より当社経済調査部作成

■大方の予想通りギリシャ議会選挙は急進左派連合が勝利

1月25日、ギリシャは議会選挙を実施、事前の市場予想通り、急進左派連合SYRIZA(シリザ)のツィプラス党首が同国首相に就くことになりそうです。今回の議会選挙(定数300議席)では、シリザが149議席(71)を獲得し第一党に、一方これまで政権を担ってきた連立政権の新民主主義党(ND)は76議席(127)、全社会主義運動(PASOK)は13議席(28)と、共に改選前議席を減らし、下野することとなりそうです(数字は開票率97.8%時点。カッコ内は改選前議席数)。

次期ギリシャ首相になるとみられるツィプラス氏は選挙前の1月20日、英経済紙に自ら政権獲得後の所信表明を寄稿しています。この中で、現政権の財政緊縮策は失敗に終わったとし、ユーロ圏加盟国としてギリシャは財政を均衡させる義務を尊重し数値目標に従う、しかしその手段はギリシャ政府が決めるとしています。

【図2】 ギリシャ政治日程はタイト、予断を許さず



出所) 各種資料より当社経済調査部作成

■今後もEFSFとの支援交渉等、ギリシャ情勢は予断を許さず。気になる予兆も

ツィプラス氏は今後、政権発足させ2月末にも期限が迫るEFSF(欧州金融安定ファシリティ)との融資支援交渉に臨みますが、難航する予兆も感じます。

その予兆とは前段の寄稿にある次のくだりです。「ドイツは1953年のロンドン会議で、過去の過ちにより負った債務を免除され戦後の経済的基礎の礎を作った。~中略~我々は成長を飛躍的に高める欧州債務会議の開催を提唱する」。新政権は175%(名目GDP比:2013年)の政府債務の減免を目指す構えで、仮にそうなれば「ユーロ圏対ギリシャ」の政治的対立の構図が再び鮮明化しましょう。さきの欧州債務問題時はギリシャ債権を有する公的、民間双方が巨額損失を被りました。今次局面では同国債権をより多く有するEU(欧州連合)等公的部門の痛手が懸念されます。ギリシャ情勢は政権発足後も予断を許さない状況です。(徳岡)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はいくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問経済調査部の見解です。
また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。